

令和5年11月1日

京都市立大原野小学校

校長 城ヶ崎 浩也

令和5年度

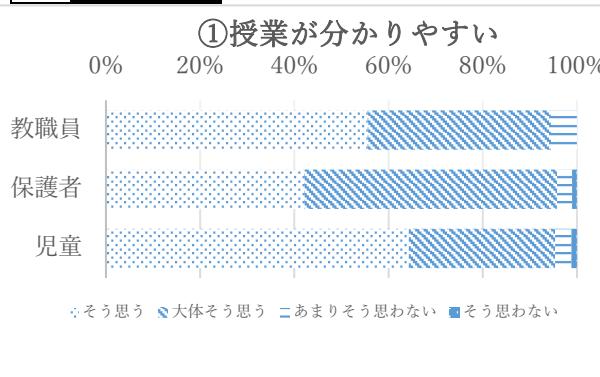
京都市立大原野小学校 第一回学校アンケート結果

第一回学校アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。アンケート結果を分析・検討し、学校運営協議会においてご意見をいただきました。その結果をお知らせします。さらによりよい大原野の教育を進めていきたいと考えています。今後とも、本校教育にご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

本校では、学校教育目標を「自ら学び未来を創造する子の育成～夢や希望をもって努力し自信をもって学び続ける児童～」とし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を柱に全ての教育活動を行っています。この3つの柱の観点から、児童12項目、保護者13項目、教職員15項目のアンケートのうち、いくつかを取り上げて考察しました。

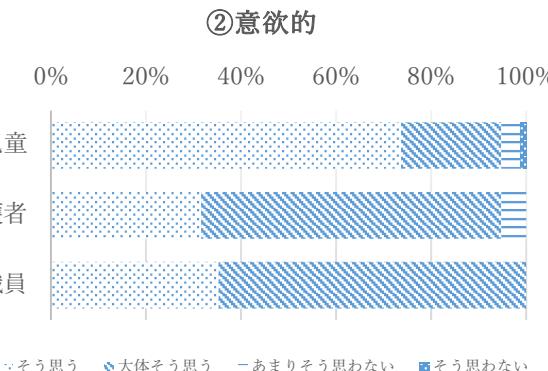
A…そう思う B…だいたいそう思う C…あまりそう思わない D…そう思わない

1. 確かな学力



項目①の「授業のわかりやすさ」については、児童・保護者とともに A と B 合わせて 95 % がプラス評価をしています。毎時間の「学習課題」を明確にし、その課題に合わせた「振り返り」をするという 1 時間の学びの流れを定着させることで、児童が 1 時間 1 時間の学習の見通しをもつことができたことが「授業のわかりやすさ」につながったものと考えられます。また、「つながり」を大切にする意味からもペア学習やグループ学習を取り入れたり、低学年の段階においては

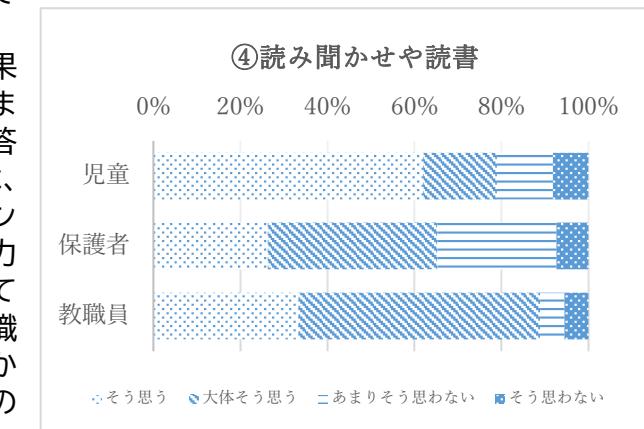
特に具体物や半具体物を使った操作活動を多く取り入れたりといった学習形態の工夫をした成果だと考えています。さらに、1人に1台 GIGA 端末を活用し、デジタルドリル「ミライシード」で朝の帯時間を中心に漢字や計算などの基礎基本の定着を図ったり、自身の思考をまとめたり相互の意見を交流しあったりすることに「ロイロノート」を活用したりすることも日常的に行っています。一方で C と D 合わせてマイナスの評価をしている児童がいることは看過できません。全ての児童が「わかりやすい」と感じることができることは児童の「確かな学力」を保障するために必要不可欠であるととらえ児童がより「わかりやすさ」を実感できるような授業の実践を模索していくことが教職員の課題であると考えます。今年度も進めてきているところではありますが、



5・6年生の中学校の教科担任制を見越した交換授業や専科授業、よりきめ細かい見取りが必要とされる就学時から低学年時の少人数による授業、スクールサポーターによるより専門性の高い授業など児童のニーズや実態に合わせた指導形態の在り方も考えていきたいと考えています。

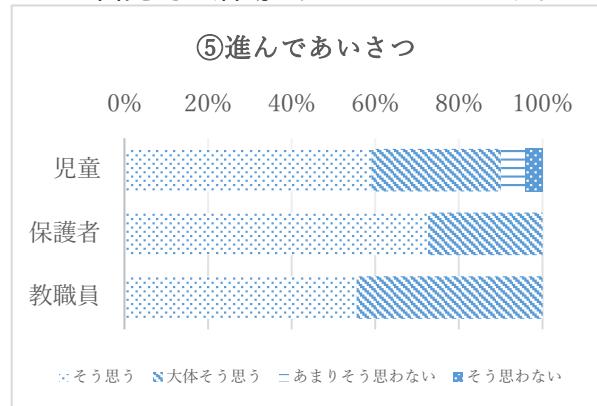
項目④の「読み聞かせや読書」については、児童の A と B 合わせて 80 % がプラスの評価をしています。前年度と比べても児童の読書への興味関心は高いといえます。本校では学校図書館司書を配置し、学習に必要な図書を整備し、児童が学習に生かすことができるよう環境づくりを大切にしています。「読書ノート」の活用や「100冊読書」の取組など児童が継続的に意欲的に読書を楽しむことができるようになっています。また、月曜日の朝の帯時間に読書タイムを設定し、週明けの児童が落ち着いた気持ちで 1 週間のスタートを切ることができますように取り組んでいます。年に 2 回の「あじさい読書週間」「どんぐり読書週間」も児童の読書好きを高めている要因と考えます。とはいって C と D を合わせて 20 % のマイナス評価も気になるところです。

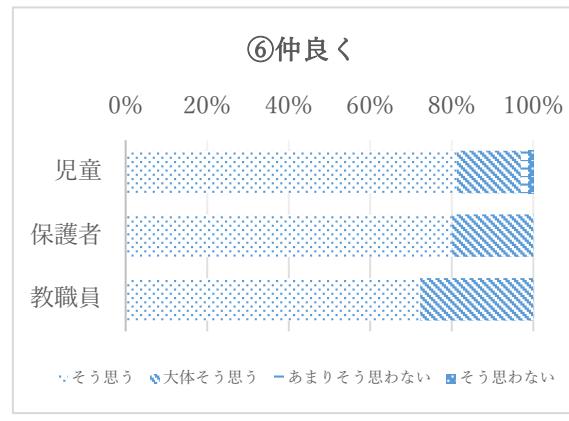
夏休み中に「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。本校の 6 年生も取り組みましたが、結果を分析しますと「読書好き」と答えた児童と「好きではない」と答えた児童では、正答率において国語・算数両教科とも 6 ポイント以上の開きが見られました。「読書」と「学力（正答率）」に相関関係があることを意識して児童に読書の有用性を指導していくことは教職員の課題であると考えます。低学年の読み聞かせから高学年の親子読書等、家庭の読書環境の整備も啓発していきたいと考えます。



2. 豊かな心

項目⑤の「進んであいさつ」についてですが、90 % の児童がプラス評価をしています。しかし、普段の児童の様子を見ていますと、進んで気持ちのよい挨拶ができていない児童もいます。また、時や場に合ったふさわしいあいさつができるないと感じる場面をよく目にします。今年度は児童会が中心となって「あいさつ週間」を設定したり、月目標にあいさつを取り入れたりするなど自発的な活動も進めてきています。「めざすあいさつの姿」を具体的に示すことや「あいさつをすることの意図」を児童に説いていくことが教職員の課題であると考えます。人と人の心をつなぐ第一歩は「気持ちのこもったあいさつ」だと考えます。今後も引き続き自ら進んであいさつをし、「つながり」を深めていくことができる取組を続けていきたいと思います。



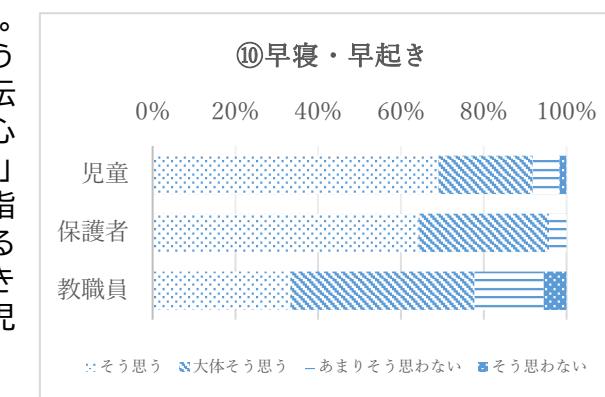
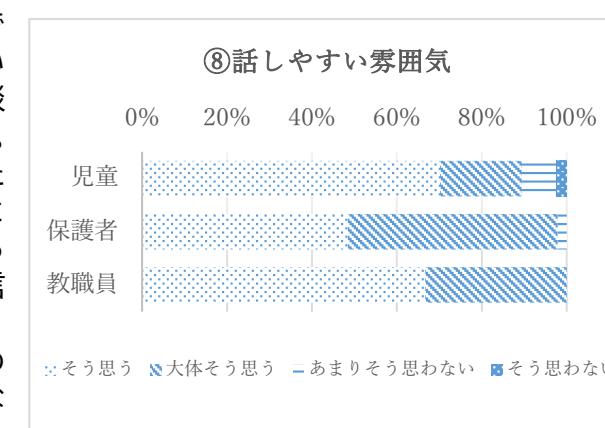


項目⑥の「友達を大切にする」ではA、B合わせて97%の児童が、保護者は100%がプラスの評価をしています。本校では毎月第3木曜日を「つながりの日」と設定しています。毎月人権に関わるテーマを決め、学年に応じた内容の学習をしています。学習のまとめを「ふり返りカード」にまとめたものは、中校舎1階の「つながりコーナー」に掲示し交流しています。また同じ日の中间休みは「つながりタイム」として縦割りで楽しく遊ぶ活動をしています。横のつながりも縦のつながりもどちらも大切にできるよう、引き続き取り組んでいきます。また、友達のよいところを終わりの会で伝え合ったり、見つけたよさを「キラキラカード」に書いたりと互いのよさに気づき、認め合い、友達を大切にする取組を積み重ねています。キラキラカードは年に4回、学級ごとにまとめて本館1階の「きらきらロード」に掲示し交流しています。これからも様々な角度から人権意識を高める活動を取り入れていきたいと考えています。

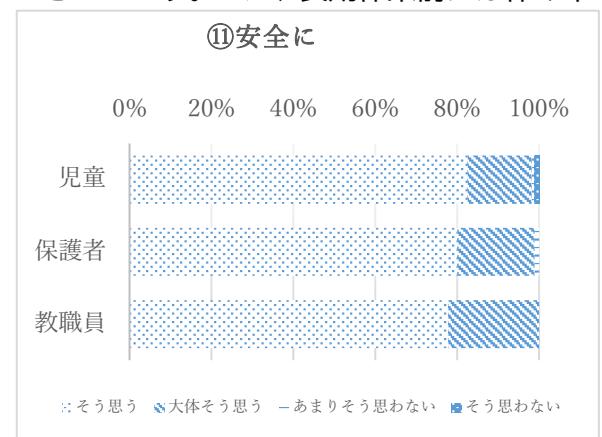
項目⑧の「話しやすい雰囲気」については、児童で90%、保護者では98%のプラス評価をしています。10%の児童が「困ったことを担任に相談することについてマイナスの評価をしています。困りを感じた児童が安心して担任をはじめとした教職員に相談することができる環境を整えることが課題だと考えています。そのためには日常から児童が安心して学校生活を送り、周りの大人を信頼して頼ることができる雰囲気のある学校づくりが肝要です。本校の取組として年2回の「いじめアンケート」「学校生活についてのアンケート」などをもとに「先生と話そう月間」として児童1人と面談する時間を大切に取り組んでいます。教職員はこれからも「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を心がけていきます。

3. 健やかな体

項目⑩の「望ましい生活習慣」については、96%のプラス評価がありました。しかし10%の児童がマイナス評価をしていることもわかりました。本校では、長期休業明けに「自分の生活を見直そう週間」を設定し、規則正しい生活習慣の大切さを伝えてきています。また、養護教諭と栄養教諭を中心となって担任、保護者と連携しながら「健康教室」を実施しています。肥満傾向のある児童に栄養指導、生活習慣の指導をすることで健康な生活を送ることができるように取組を進めています。引き続き規則正しい生活習慣を維持することの大切さを児童に指導し、保護者に啓発していきます。



項目⑪の「安全に気をつける」でも、高いプラス評価を回答しています。本校では、毎月「安全ノート」を活用し、校外・校内で安全に過ごすための学習をしています。交通安全教室や自転車教室なども地域・保護者の協力を得ながら実施してきています。また、長期休業前には休み中の校外での安全な過ごし方、町別児童会では安全な登下校の仕方と機会ごとに指導をしています。様々な場面を想定した避難訓練を行い、自分の命を自分で守るために必要な正しい行動について考える時間を持っています。教職員は、児童の命を守り切ることができるよう万一に備え、共通理解を図り、事故を未然に防ぐこと、事故等の緊急時に迅速・適切な対応を連携して行うことができるよう「実地訓練」に取り組んでいます。（「HANA モデル」）今後も様々な場面・場所で危険を予測し、適切に行動できる力を保護者・地域と連携しながらつけていかなければならぬと考えます。



4. その他（学校運営協議会でいただいたご意見を載せています）

- ・保護者が進んで見守り隊の活動に取り組んでくださるのがとてもありがたい。
元気な挨拶を返してくれると朝から気持ちがよくなるので、みんなが挨拶をしてくれると嬉しい。学校側も引き続き挨拶の大切さを指導してほしい。
- ・今年度は見守り隊の紹介を5月当初の朝会で行うことができたことはとてもよかったです。3月の朝会か「6年生を送る会」などの機会に1年間の感謝の気持ちを伝える会をもちたい。
- ・放課後まなび教室では、異学年同士の交流が自然とできあがっている。上の学年が下の学年に優しく接している姿をよく見かける。
- ・9月の自由参観では子ども達がのびのびと楽しく学習に臨んでいる姿が見られた。つながりタイムでは、高学年の子ども達が低学年の子ども達をリードして楽しく遊んでいる姿が印象的だった。
- ・運動会では、地域の独居老人が観覧できる「敬老席」が復活するとのことで喜ばしい。2年生の子ども達が独居老人への招待状を作ってくれた。たくさんの観覧があることを期待したい。
- ・PTAでは、昨年度より「できる人ができる時にできることを」というコンセプトで、学校行事などボランティア制にして活動している。多くの方に参加してもらえてありがたい。引き続きこの方法で続けていきたい。
- ・アンケートの結果については、母体数が大きく大きく関わってくる。大原野は母体数が少ないので、1~2人で結果が変わる。
- ・学校は、アンケートの数字に一喜一憂することなく、子どもの学びのために、取り組んでいただきたい。

学校が目指している児童の成長には、家庭・地域との連携が欠かせません。学校での取組を各種たよりやホームページなどを通して発信していくと同時に、児童・保護者・地域からの様々な声に耳を傾けられているかなどについて、教職員は今後も自らに問い合わせの機会をもちながら教育活動・学校運営を進めています。